

国土の発展と道路整備

沓掛哲男*

Road Improvement for Harmonious Development of National Land

Tetsuo KUTSUKAKE*

私は昨年6月まで東北地方建設局に勤務しておりましたが、東北は2度目の勤務でもあり、市町村長さん方と仕事を通じて語り合う機会も多くありました。この方々の共通の悩みは、東北では①雇用の機会が少ないこと、②1人当りの所得水準が低いことです。一言でいえば、東北では魅力的な職場が少なく、貧しいということですが、これは地方のもつ共通の問題でもあります。

これに関連して、まず日本と世界の主な経済指標を比較しますと、日本の国土面積は世界の国土面積の0.24%、人の住んでいない陸地を除いたいわゆる経済域で比較すると0.27%、人口は2.7%、GNPでは10%強となります。即ち、世界の0.27%のところに、世界の人口の2.7%の人が生活して、世界のGNPの10%強を生産しているわけですから、日本はいろいろな面で超過密状態です。

その日本の国の中だけを見た場合、大都市に人口、産業等、多くのものが集中しています。たとえば、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の1都3県では、面積はわが国全体の3.6%ですが、ここに2,800万人以上の人々が住み、商品販売額といったような、経済的活動面では全国の1/3、国富というような資産面では全国の3割が存しています。非常に狭い地域にたくさんの人や企業が集中して猛烈な活動をしているわけですから、防災、公害といった面では大変脆弱な環境にあり、交通渋滞や住宅不備の問題がおこる必然性があります。

この大都市の問題と前述の地方の問題を同時に解決するには、大都市から2割程度の人口、産業を地方へ誘導することが必要ではないでしょうか。既に、その芽生えが地方に起こっております。最近の工場の立地状況をみますと、地方での立地のウエイトが次第に増加しています。東北地方を例にとりますと、最近数年の工場立地数(1,000m²以上の用地取得のもの)の全国比は12~15%であり、東北の工業出荷額の全国比が3~4%であることを考えると、大変大きなものです。

この東北地方へ進出してきた企業にアンケート調査で、その進出理由を尋ねてみますと、①労働力の確保が容易であること、②用地取得が容易であること、③地方公共団体の協力が良いこと、④稀少資源である水、電力の確保が容易であること等をあげています。さらに「優良企業を東北地方に誘致するために必要な施策は何ですか」との問に対しては、高速交通ネットワークおよび都市の整備が多くあげられています。

昭和58年度を初年度とする総投資規模38兆2,000億円の第9次道路整備5か年計画が、2月4日に閣議了解されました。その内容は、第8次に引き続き、①道路交通の安全確保、②生活基盤の整備、③生活環境の改善、④国土の発展基盤の整備、⑤維持管理の充実等を主要課題としています。その推進にあたっては、国土の均衡ある発展の一層の推進、地方空港、新幹線および港湾と道路とがそれぞれの長所を活かして、わが国の輸送体系の一層の効率化、合目的化を図るため、①高速道路ネットワークの強化、充実、②都市の環状道路の整備、③総合交通政策の推進、にアクセントをおきたいと考えています。*今後とも関係各位のなご一層のご理解とご支援を賜わりつつ、国土の均衡ある発展のための道路整備を強力に推進していく所存です。

*建設省道路局長(本学会顧問)
Director General, Road Bureau, Ministry of Construction
原稿受理 昭和58年2月14日